

読解力を身に着けるために、昨日の新聞を**小学高学年生・中学生・高校生にプレゼントしてあげてください(1)**

—新聞を毎日読むことで、すべての勉強の基本となる「読解力」が身に着き、
学校の勉強に役に立ち、また、受験にも役に立ちます—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：新聞は、子どもたちの教育に役に立つのですか。

A：(1) ①はい、とても役に立つと考えます。新聞を毎日よく読んでみると、今住んでいる町や市・区、県や都など身近な地域の出来事がよくわかります。

②同時に、日本やアジア、世界の各地のどこで、いつ、何が、だれによって、なぜ、どのように起きているかがよくわかるようになります。

③新聞の記事は、5W1H (Where、When、What、Who、Why、How) で書かれているからです。

(2) ①政治や経済、社会だけではなく、スポーツや文化、医療や福祉、健康、科学技術、企業や NPO・NGO 活動についても、最先端の動きがとてもわかりやすい形で紹介されています。人生相談や投書欄、文芸欄、囲碁・将棋・料理・教育欄も充実しています。

②現代社会の抱える課題についても、新聞社としての考えが、社説や論説、解説やコラムでわかりやすく示されています。

③ AI や IoT、5G などの最先端技術、高度最先端医療、超少子高齢化、SDGs などを最も熱心に取り上げているのは新聞です。

(3) ①このように、新聞は、教育にとっても極めて大切であると考えます。そこで、開倫塾は 1979 年の創業以来、塾生・保護者・地域社会の皆様に、「新聞を毎日、腰を落ち着けて 30 分間、1 面のトップ記事から社会面までなめるようにじっくり読むこと」を、毎年折に触れて、何回も、何回もお奨めし、また、お願いして、今年で 40 年になります。

②英語検定準 2 級、または、2 級合格者には、英字新聞を毎日 1 時間読み、英語の「読解力」を身に着けることをお奨めしています。

③日本の英語学習者に決定的に不足しているのは、英語の文章に触れる絶対量だからです。日本人が難しい内容の話を英語で聞いてよく理解できないのは、英語を読む絶対量が極端に不足しているからです。「読んでわからないことは、聞いてもわからない」からです。英語を読む絶対量を確実に増やすには、英語検定準 2 級、または、2 級を取得したら、英字新聞を毎日 1 時間以上読み続けることです。

Q：結構、熱心なのですね。なぜですか。

A：（１）①英字新聞を含め、新聞を毎日、腰を落ち着けて１面からじっくり読む習慣が少しずつでも身に着いてくるとどうなるか。

②世の中のことがよくわかるようになります。

③同時に、「自分の力でものごとを考えること」ができるようになります。「自分で考える力」が身に着くのが新聞です。英字新聞を毎日読み続けると、世界のことがもっとわかるようになり、また、英語で考える(Think in English)ことができるようになります。

（２）この「自分で考える力」の中には、「これは、ちょっとおかしいのではないか」と、ものごとを冷静・沈着に見直す「批判的思考能力」も含まれます。

（３）①このように、新聞を毎日、腰を落ち着けてじっくり読んで身に着くのは、「自分で考える力」と「批判的思考能力」です。

②「学力」を「主体的に学ぶ力」と考えると、新聞は、「主体的に学ぶ力」を身に着ける上で極めて重要な役割を果たします。

③選挙権年齢が 20 歳から 18 歳になり、国家をどのようにするかを決定する「主権者としての教育」が叫ばれています。「主権者教育」の最良の教材は、新聞です。

Q：なるほど。それではお聞きします。新聞は、学校の勉強・定期テストや受験勉強・入試に役に立ちますか。

A：（１）オッ、ズバッとききましたね。それではお答えします。

①新聞は、学校の勉強や定期テスト対策に役に立ちます。

②業者模試、入試対策などの受験勉強にも役に立ちます。

（２）なぜなら、新聞を読んで身に着くのは、学校の勉強や定期テスト、受験勉強や入試に絶対に必要な「読解力」だからです。

①「読解力」は、すべての教科の基本です。

②学校の定期テストや入試などすべての試験では、問題文や設問、選択肢などを正確に、また、論理的、分析的に読み込み、正解を導き出す「読解力」が必要です。教科書や問題集、様々な教材を理解するのに、「読解力」は不可欠です。授業中に取ったノートも、「読解力」がなければ理解できません。

③この「読解力」を身に着けるのに、新聞を毎日、腰を落ち着けてじっくり読むことは極めて効果的です。

（３）①最近の入試には「PISA 型」という、文章や資料・データを文脈を追いながら論理的、分析的に読み解く新しい問題が、中学入試から大学入試まで多くの教科で頻出しています。

*学校の定期テスト・実力試験、業者模試も「PISA 型」が激増しています。

②これに備えるには、新聞を毎日じっくり読み込むことが最も効果的です。

③ですから、新聞を毎日、腰を落ち着けてじっくり読むことは、定期テスト対策、業者模試対策、入試対策、つまり、受験勉強そのものといえます。そこで、私立中学校入試から難関大学入試まですべての受験生には、入試当日まで、新聞を毎日 30 分じっくりお読みになることをお奨めしているのです。

④難関校を受験する受験生は、英字新聞も入試当日まで手放してはなりません。英字新聞を読むこと自体が、受験勉強です。